

CSRダイジェスト 2013

CSR DIGEST | 2013

KOMATSU

コマツ
CSR室
〒107-8414 東京都港区赤坂2-3-6
<http://www.komatsu.co.jp/>

Tel: 03-5561-2799
Fax: 03-3505-9662



もくじ

| | |
|--|----|
| トップメッセージ | 02 |
| コマツのCSR経営 | |
| 重点分野の策定プロセス | 03 |
| 推進体制 | 04 |
| 経営とCSRの関係 | 04 |
| 具体的な取り組み事例 | 05 |
| 国際基準との対比 | 06 |
| 外部評価 | 08 |
| 重点分野 ① 生活を豊かにする —社会が求める商品を提供する— | |
| 本業を通じたCSR活動とは | 09 |
| ICTの活用による生産性・安全性の向上 | 10 |
| コマツと環境との関わり | 11 |
| 地球環境基本方針 | 12 |
| 電力半減プロジェクト | 13 |
| 安全性の向上 | 14 |
| 重点分野 ② 人を育てる | |
| 世界各地で、地域に根ざした人材育成 | 15 |
| だれもが働きやすい職場をめざして | 17 |
| コマツウェイと人材育成 | 18 |
| 重点分野 ③ 社会とともに発展する | |
| 東日本大震災復興支援への継続的な取り組み | 19 |
| ステークホルダーとの対話 | 21 |
| 協力企業の皆さまとともに | 22 |
| コンプライアンスの推進 | 23 |
| リスク管理 | 24 |
| コーポレート・ガバナンス | 25 |
| 安全な村づくりプロジェクト | 27 |
| CSR活動のあゆみ | 28 |
| コーポレート・インフォメーション | 29 |

編集方針

- ・「CSRダイジェスト2013」は、「コマツレポート2013」に掲載した内容をベースに、3つの重点分野の取り組みをコンパクトにまとめた報告書です。
- ・各重点分野における取り組みとして、主要なもの、もしくはトピックスとして新しいものを取り上げました。
- ・WEBサイトでは、この「CSRダイジェスト」や「コマツレポート」の内容をPDFでご覧いただけるほか、①方針や原則などで普遍的なもの、②継続的な活動や取り組み、③詳細や関連情報を網羅的に開示しています。（コマツCSRサイト <http://www.komatsu.co.jp/CompanyInfo/csr>）
- ・データは2012年4月から2013年3月までを対象としています。一部の報告については、2013年4月以降のものもあります。
- ・次回報告の予定：2014年7月

トップメッセージ

本業のビジネスで社会に貢献する、コマツのCSR活動

街を造る建設機械、資源を採掘する鉱山機械、木材やパルプの生産に欠かせない林業機械等、コマツはお客様に提供する商品・サービスを通じて、世界の人々の生活を豊かにするお手伝いをしています。また事業を展開する過程では、世界各地で機械保守の技能を有した人材の育成を通して、地域の人材活性化にも貢献しています。このように、本業のビジネスをグローバルに展開することそのものが、コマツにとってのCSR活動であると考えています。

新しい中期経営計画の柱の一つ「イノベーションによる成長戦略」では、施工の効率化・自動化を実現するICT建機や、鉱山運営の安全性・生産性向上に貢献する無人ダンプトラック運行システム、また林業機械の車両管理システム等、最先端のICTを活用した商品の開発・市場導入を促進します。お客様の現場をお客様とともに革新し、新しい価値を創造する「イノベーション」を起こしていく。そのために私達自身が変わっていくことがコマツの責任であると考えています。

また、これらの事業を行っていく上で、我々メーカーが一番重視しなくてはならないのが「安全」です。安全は企業の社会的責任そのものであり、自分自身と家族、周りの仲間へのコミットメントです。またコンプライアンスは地域社会への、品質はお客様へのコミットメントであり、この3つなしでは企業は存立し得ないと思います。コマツはこれらの責任を果たしながら、本業のビジネスを発展させることで、持続可能な成長を目指していきたいと考えています。

大橋 徹二

代表取締役社長（兼）CEO
大橋 徹二



私たちは
国連グローバルコンパクトの
活動を支持します。

WE SUPPORT

コマツのCSR経営



重点分野の策定プロセス

CSR優先課題の選定

2010年度、コマツは社外第三者である米国のNPO法人BSR (Business for Social Responsibility) の支援を受けながら、CSR重点分野の策定を行いました。

そのプロセスとしてまず、コマツが本業を通じて貢献できるCSR優先課題を選定しました。数多い社会的課題の中から、コマツの事業に関連のあるものを抽出し、それらがコマツの事業とステークホルダーの双方にとって重要な、という観点で整理しました。

■ コマツのCSR優先課題

| 商品・サービス・お客さま | 環境 |
|--------------|--------------------|
| 安全性向上商品 | 環境対応商品 |
| お客さまへの責任ある対応 | 環境対応(事業所・稼働現場) |
| | リマニュファクチャリング(製品再生) |

| 社員 | 人権 |
|----------|----------|
| 人材育成 | 基本的人権の尊重 |
| 職場の安全性向上 | 雇用の平等 |
| 社員の尊重 | |

| 倫理とガバナンス | 地域社会 |
|------------------------|-----------|
| ステークホルダーとの協力 | 地域社会の発展 |
| コーポレートガバナンス・コンプライアンス | 災害復興支援 |
| ビジネスパートナーを含めた社会のルールの遵守 | 地域住民の生活向上 |

コマツのCSR重点分野・重点活動

次にこれらの課題に対して「コマツが何をすべきか」を、BSRとともに社内で議論し、グローバルに共有できる3つの重点分野を導き出しました。各分野に対して、現在取り組んでいる中期経営計画を基準に、重点活動も明確にしました。

■ コマツのCSR重点分野・重点活動

1. 生活を豊かにする —社会が求める商品を提供する—

- インフラ整備と生活の向上に貢献する商品やサービスの提供
- ICTの活用による生産性/安全性向上・効率化・省エネルギー促進
- 商品の稼働現場と事業所における環境対応
- 商品のライフサイクルにおける環境負荷低減
- 安全性の向上(お客さま、社会、社員、ビジネスパートナー)

2. 人を育てる

- 地域社会における人材育成への貢献
- コマツウェイを通じた人材育成(社員、協力企業)
- ブランドマネジメントを通じた人材育成(社員、代理店)

3. 社会とともに発展する

- ステークホルダーとの双方向のコミュニケーション
- 本業を活かした社会貢献(災害復興支援、地雷除去活動)
- 地域社会への貢献
- コーポレートガバナンスとコンプライアンスの徹底
- ビジネスパートナーを含めた環境・労働・社会規範遵守の促進

推進体制

CSR活動は我々が日々行っている事業活動そのものであり、全社に各専門部署、会議体を組織して活動しています。CSR室は社

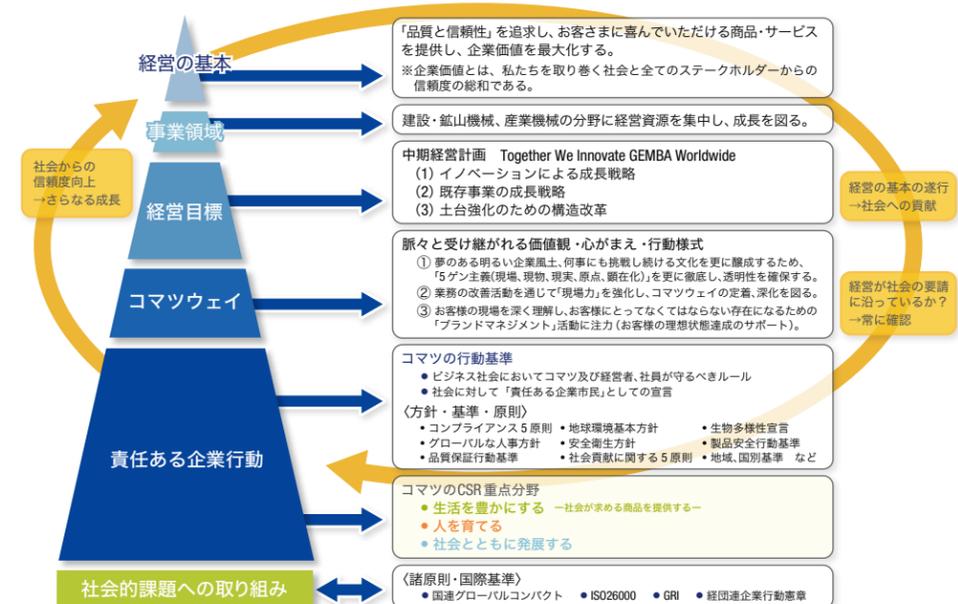
長直轄の組織であると同時に、社内有志者によるCSR委員会のサポートを得ながら、CSR活動を統括・推進しています。



経営とCSRの関係

CSR重点分野と重点活動を明確にした上で、自らの経営が、社会の期待や要請に沿っているかを常に確認し、また社内外のステークホルダーとの双方向の対話を通じて何が重点課題かを

理解しながら、CSR活動を推進します。そうすることにより、社会からの信頼度を向上させ、持続的な成長につなげていきたいと考えています。



コマツのCSR経営

生活を豊かにする

人を育てる

社会とともに発展する

具体的な取り組み事例

重点分野・重点活動に対する具体的な取り組み事例は以下の通りです。

なお下表以外の活動および普遍的な取り組み・方針などについては、コマツのCSRウェブサイトにおいて紹介しています。

| CSR重点分野・重点活動 | 具体的な取り組み事例 |
|---|--|
| 1.生活を豊かにする –社会が求める商品を提供する– | |
| <ul style="list-style-type: none"> インフラ整備と生活の向上に貢献する商品やサービスの提供 ICTの活用による生産性/安全性向上・効率化・省エネルギー促進 商品の稼働現場と事業所における環境対応 | <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した情報化施工 ■バイオディーゼル燃料プロジェクト ■環境対応商品・サービスの市場導入 <ul style="list-style-type: none"> ・排ガス規制 (Tier4) に対応した建設機械 ・低燃費性能油圧駆動式フォークリフト ・次期排出ガス規制対応の新型エンジン開発 ・電力消費削減のファイバーレーザー加工機とサーボプレス ■事業所におけるCO₂削減、資源有効利用 <ul style="list-style-type: none"> ・電力削減活動 (見える化による無駄の排除、生産改革、代替エネルギーの利用) ・サプライヤーに対してのコマツ省エネ活動の展開推進 ・ゼロエミッション ・水資源利用の節約 ■事業所における生物多様性への対応 |
| <ul style="list-style-type: none"> 商品のライフサイクルにおける環境負荷低減 | <ul style="list-style-type: none"> ■物流におけるCO₂削減活動 <ul style="list-style-type: none"> ・効率的な積載と、近港を利用した輸送 ■リマン事業の展開 <ul style="list-style-type: none"> ・使用済みエンジンなどを新品同等にし、市場へ再供給 ■建設機械のリサイクル可能率向上 <ul style="list-style-type: none"> ・非塩素ホース導入完了 (油圧ホース廃却時リサイクル可能) ・Tier4規制対応車で99%達成 |
| <ul style="list-style-type: none"> 安全性の向上 (お客さま、社会、社員、ビジネスパートナー) | <ul style="list-style-type: none"> ■商品・サービスや、現場における安全性の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・品質保証体制の整備 ・お客さまに対する講習会の開催 ・職場における労働安全衛生への取り組み |
| 2.人を育てる | |
| <ul style="list-style-type: none"> 地域社会における人材育成への貢献 | <ul style="list-style-type: none"> ■建設機械の保守サービス技能を有した人材の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ、中国、ミャンマーなどでのサービス人材育成 ■次世代育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ、日本、スウェーデンにおける子供や若者の育成 |
| <ul style="list-style-type: none"> コマツウェイを通じた人材育成 (社員、協力企業) | <ul style="list-style-type: none"> ■コマツウェイと人材育成 |
| <ul style="list-style-type: none"> ブランドマネジメントを通じた人材育成 (社員、代理店) | <ul style="list-style-type: none"> ■ブランドマネジメントへの取り組み |
| 3.社会とともに発展する | |
| <ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーとの双方向のコミュニケーション | <ul style="list-style-type: none"> ■ステークホルダーとのコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> ・ステークホルダーとの対話 ・株主、地域、社員とのコミュニケーション ・協力企業とのコミュニケーション |
| <ul style="list-style-type: none"> 本業を活かした社会貢献 (災害復興支援、地雷除去活動) | <ul style="list-style-type: none"> ■東日本大震災後の復興支援 ■安全な村づくりプロジェクト |
| <ul style="list-style-type: none"> 地域社会への貢献 | <ul style="list-style-type: none"> ■各地域のニーズに合ったグローバルな社会活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ、日本、スウェーデンにおける子供や若者の育成 ・日本花の会の支援、スポーツ振興 |
| <ul style="list-style-type: none"> コーポレートガバナンスとコンプライアンスの徹底 | <ul style="list-style-type: none"> ■マネジメントを初め、全社員によるコンプライアンスの徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・コーポレートガバナンスへの取り組み ・コンプライアンスへの取り組み |
| <ul style="list-style-type: none"> ビジネスパートナーを含めた環境・労働・社会規範遵守の促進 | <ul style="list-style-type: none"> ■CSR調達への取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・CSR調達ガイドラインの制定と啓蒙活動 ・協力企業と一体となった環境への取り組み |

国際基準との対比

コマツは、企業として自らの経営が社会の要請に沿っているかについて、常に確認しなければならない、と考えます。社会の要請を知るうえでは、国連グローバルコンパクト、ISO26000などの国際基準等を参考にしています。

ビジネスパートナーを含め、サプライチェーンを通じてこの自主行動原則を意識して行動します。GC10原則に対する、コマツの社内ガイドラインの対応は下表の通りです。

国連グローバルコンパクトの原則とコマツの活動...

グローバルに事業を展開する企業の責任として、コマツは国連グローバルコンパクト (GC) に署名をしています。



<国連GCとは>
国連が提唱する人権、労働、環境、腐敗防止の4分野にわたる、企業による自主行動原則です。

| ■ 人権 | | 国連 GC GC10 原則 | コマツ社内ガイドライン対応項目 |
|--------|--|------------------|--|
| 原則1 | 企業はその影響の及ぶ範囲内で国際的に宣言されている人権の擁護を支持し、尊重する。 | | <ul style="list-style-type: none"> ■グローバルな人事方針の展開 (コマツの行動基準・5章 (1)項) <ul style="list-style-type: none"> ・社員の基本的人権の尊重 ・ワークライフバランスの推進 ■協力企業各社へのお願い (CSR調達ガイドライン・5項) <ul style="list-style-type: none"> ・人権の尊重 |
| 原則2 | 人権侵害に荷担しない。 | | |
| ■ 労働慣行 | | 国連 GC GC10 原則 | コマツ社内ガイドライン対応項目 |
| 原則3 | 組合結成の自由と団体交渉の権利を実効あるものにする。 | | <ul style="list-style-type: none"> ■グローバルな人事方針の展開 (コマツの行動基準・5章 (1)項) <ul style="list-style-type: none"> ・社員個々又は代表者との対話・協議を誠実に行う ・児童労働・強制労働の禁止 ・雇用の機会均等、不当な差別・ハラスメントの禁止 ■安全衛生方針の展開 (コマツの行動基準・5章 (2)項) <ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心して働ける職場環境の実現 ■協力企業各社へのお願い (CSR調達ガイドライン・5項) <ul style="list-style-type: none"> ・児童労働や強制労働に関与しない ・差別とハラスメントのない職場の実現 ・安全で健康に就業できる職場環境の実現 ・公平で公正な人事制度の確立 |
| 原則4 | あらゆる形態の強制労働を排除する。 | | |
| 原則5 | 児童労働を実効的に廃止する | | |
| 原則6 | 雇用と職業に関する差別を撤廃する。 | | |
| ■ 環境 | | 国連 GC GC10 原則 | コマツ社内ガイドライン対応項目 |
| 原則7 | 環境問題の予防的なアプローチを支持する。 | | <ul style="list-style-type: none"> ■経営の指針 (コマツの行動基準・1章) <ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した、安全で創造的な商品・サービスとシステムの提供 ■地球環境への取組み (コマツの行動基準・6章) <ul style="list-style-type: none"> ■コマツ地球環境基本方針 <ul style="list-style-type: none"> ・気候変動への取組み ・循環型社会構築への取組み ・大気・水環境などの保全および化学物質管理 ・生物多様性 ・環境管理体制の構築 ・環境教育および環境コミュニケーション ■コマツの生物多様性宣言 ■協力企業各社へのお願い (CSR調達ガイドライン・4項) <ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷低減、化学物質の適正管理、環境管理システムの構築 |
| 原則8 | 環境に関して一層の責任を担うためのイニシアチブをとる。 | | |
| 原則9 | 環境にやさしい技術の開発と普及を促進する。 | | |

コマツのCSR経営

■ 腐敗防止

| 国連GC GC10原則 | | コマツ社内ガイドライン対応項目 |
|----------------|---------------------------------|---|
| 原則10 | 強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗を防止するために取り組む。 | ■自由で公正な取引（コマツの行動基準・4章） ・公正な競争 ・不適切な取引慣行の踏襲禁止 ・虚礼廃止 ・政府機関との公正・健全な関係 ■協力企業各社へのお願い（CSR調達ガイドライン・6項） ・自由かつ公正な競争と取引 ・不適切な金品その他の利益の授受禁止 |

ISO26000とコマツのCSR優先課題

コマツは社外第三者である米国のNPO法人BSR (Business for Social Responsibility) の支援を受けながら、CSR重点分野の策定を行いました。

そのプロセスとしてまず、コマツが本業を通じて貢献できるCSR優先課題を選定しました。

数多い社会的課題の中から、コマツの事業に関連のあるものを抽出し、それらがコマツの事業とステークホルダーの双方にとって重要か、という観点で整理しました。

そのCSR優先課題と、「社会的責任に関する手引き」である国際規格ISO26000の中核主題・課題は下表のように対応しています。

■ 組織統治

| ISO26000 課題 | コマツのCSR優先課題 |
|----------------|--|
| 課題1：組織統治 | ・ステークホルダーとの協力 ・コーポレートガバナンス ・コンプライアンス ・ビジネスパートナーを含めた社会ルールの遵守 |

■ 人権

| ISO26000 課題 | コマツのCSR優先課題 |
|---|--|
| 課題1：デューデリジエンス 課題2：人権に関する危機的状況 課題3：加担の回避 課題4：苦情解決 課題5：差別及び社会的弱者 課題6：市民的及び政治的権利 課題7：経済的、社会的及び文化的権利 課題8：労働における基本的原則及び権利 | ・基本的人権の尊重 ・ビジネスパートナーを含めた社会ルールの遵守 ・地域社会の発展 ・災害復興支援 ・地域住民の生活向上 |

■ 労働慣行

| ISO26000 課題 | コマツのCSR優先課題 |
|---|--|
| 課題1：雇用及び雇用関係 課題2：労働条件及び社会的保護 課題3：社会対話 課題4：労働における安全衛生 課題5：職場における人材育成及び訓練 | ・雇用の平等 ・職場の安全性向上 ・人材育成 ・ビジネスパートナーを含めた社会ルールの遵守 |

■ 環境

| ISO26000 課題 | コマツのCSR優先課題 |
|---|---|
| 課題1：汚染の予防 課題2：持続可能な資源の利用 課題3：気候変動の緩和及び気候変動への適応 課題4：環境保護、生物多様性、及び自然生息地の回復 | ・環境対応商品 ・環境対応（事業所・稼働現場） ・リマニュファクチャリング（製品再生） |

コマツのCSR経営

■ 公正な事業慣行

| ISO26000 課題 | コマツのCSR優先課題 |
|--|---|
| 課題1：汚職防止 課題2：責任ある政治的関与 課題3：公正な競争 課題4：バリューチェーンにおける社会的責任の推進 課題5：財産権の尊重 | ・コーポレートガバナンス ・コンプライアンス ・ビジネスパートナーを含めた社会ルールの遵守 |

■ 消費者課題

| ISO26000 課題 | コマツのCSR優先課題 |
|--|---|
| 課題1：公正なマーケティング、事実即した偏りのない情報、及び公正な契約慣行 課題2：消費者の安全衛生の保護 課題3：持続可能な消費 課題4：消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決 課題5：消費者データ保護及びプライバシー 課題6：必要不可欠なサービスへのアクセス 課題7：教育及び意識向上 | ・安全性向上商品 ・お客さまへの責任ある対応 ・環境対応商品 ・リマニュファクチャリング（製品再生） |

■ コミュニティ参画および発展

| ISO26000 課題 | コマツのCSR優先課題 |
|--|--|
| 課題1：コミュニティへの参画 課題2：教育及び文化 課題3：雇用創出及び技能開発 課題4：技術の開発及び技術へのアクセス 課題5：富及び所得の創出 課題6：健康 課題7：社会的投資 | ・地域社会の発展 ・災害復興支援 ・地域住民の生活向上 ・人材育成 |

外部評価

■ 環境・社会性に関わる外部表彰および外部からの評価

- 2013 1月
 - 日本経済新聞社：第16回「企業の環境経営度」第19位（438社中）
 - 東洋経済新報社：「CSR企業ランキング」第21位（1116社中）
 - インテグレックス：「企業の誠実さ・透明性調査」第5位（616社中）
- 2012 1月
 - 日本経済新聞社：第15回「企業の環境経営度」第38位（449社中）
 - 東洋経済新報社・グリーンリポートフォーラム：「CSR・環境報告書2011」が第15回環境報告書賞の優良賞を受賞
 - 東洋経済新報社：「CSR企業ランキング」第19位（1117社中）
 - インテグレックス：「企業の誠実さ・透明性調査」第4位（611社中）
- 8月
 - コマツアジア（有）がシンガポール環境業績大賞の製造部門優秀賞を受賞。
- 9月
 - 東京証券取引所グループによるESG（環境、社会、ガバナンス）優良企業として選定。
- 12月
 - 日本経済新聞社：企業評価システム「NICES」総合ランキング第3位（1020社中）

SRI（社会的責任投資）評価機関からの評価

MEMBER OF
Dow Jones Sustainability Indices
 In Collaboration with RobecoSAM
 米国S&Pダウ・ジョーンズ社とスイスのロベコ・サム社によるSRIの株価指標DJSIに選定

MS-SRI | モーニングスター社会的責任投資株指数
 Morningstar Socially Responsible Investment Index
 日本のモーニングスター社のSRIの構成銘柄に選定（2011年9月時点）

Corporate Responsibility
 rated by **oeekom | re | se | ar | rich**
 Prime
 ドイツのイーコム・リサーチ社による企業責任の格付けでMachinery業界35社中の1社として"Prime"の認定

THE GLOBAL COMPACT
 WE SUPPORT
 コマツは国連グローバルコンパクトを支持しています。

生活を豊かにする

— 社会が求める商品を提供する —
重点活動

- ・インフラ整備と生活の向上に貢献する商品やサービスの提供
- ・ICTの活用による生産性/安全性向上・効率化・省エネルギー促進
- ・商品の稼働現場と事業所における環境対応
- ・商品のライフサイクルにおける環境負荷低減
- ・安全性の向上（お客さま、社会、社員、ビジネスパートナー）



本業を通じたCSR活動とは

インフラ整備と生活の向上に貢献する

コマツが提供する建設・鉱山機械をはじめとした商品は、世界の国づくりや住みよい暮らしに役立っています。

建設機械は、道路や商業施設の建設、港湾・護岸工事など、生活インフラを整備します。また、木材やパルプを生産する林業、石炭や鉄鉱石などの資源を生産する鉱山でも、コマツの商品は活躍します。



環境・安全・ICTを活用したビジネスの展開

これらの商品・サービスを提供するに当たって、コマツは「環境・安全・ICT」に重点を置き、お客さまの要求にお応えし、必要とされる存在になることを目指しています。そして最終的には全世界の人々の生活を豊かにするためのお手伝いをすることが、コマツの使命であると考えています。

この取り組みを、土木建設のお客さまへの対応を例にして示すと、以下のようになります。

土木建設事業を通じて生活を豊かにするイメージ

コマツの取り組み

- ・高品質な建設機械の提供
- ・機械を止めないサービス活動
- ・環境に優しい機械
- ・高機能な建設ソリューション



遠隔管理 (KOMTRAX) で最適サービスを提供



燃費を通常型より25%向上したハイブリッド車



高性能GPSの活用で作業を自動化制御

社会課題の解決

- 工事期間短縮
- 燃費向上によるCO₂削減
- 地域社会への貢献（安全・健康な町づくり等）
- 良質の工事仕上げ
- 安全

全世界の人々の生活を豊かにするお手伝い

このように、お客さまや社会が求める商品・サービスを提供し、また事業を展開する上では、環境や安全といった点に配慮しながら、「生活を豊かにする」というテーマに取り組んでいます。

生活を豊かにする — 社会が求める商品を提供する —

ICTの活用による生産性・安全性の向上

世界初の作業機全自動制御ブルドーザー

2013年4月、コマツはICTブルドーザー「D61PXi-23」を国際建設見本市「Bauma2013」（ドイツ・ミュンヘン）に出展。世界初の作業機全自動制御という、将来建機への新たな「道」を切り拓きました。

D61PXi-23に搭載された三次元自動ブレードコントロールは、GNSS**で作業機の位置情報をリアルタイムに探知し、読み込んだ三次元CAD(コンピューター設計)図面に沿って作業機を動かします。モニターパネルに表示される目標に機械を導くだけで、荒掘削から仕上げ整地までの一連の作業を、ベテランオペレーターが操作するかのように全自動で行います。

さらにコマツのICT建機は、革命的な進歩を遂げるICTやGNSS技術を用いて掘削・整地作業と同時に地形を把握し、工事進捗情報として活用することが可能です。近い将来、ICT建機が発信するデータをもとに工事現場を「見える化」し、お客さまとコマツが知恵を結集して共に現場を改善・改革していくことにより、かつてない安全性、生産性、効率性を備えた理想の建設・土木現場が実現できるものと確信しています。



● ICTブルドーザー D61PXi-23

* 作業機：直接的に土木作業をする装置
** GNSS：人工衛星を使った測位システムの総称（Global Navigation Satellite Systems）。世界各国でシステムを構築しており、代表的なものにGPS（北米）、GLONASS（ロシア）があります。

環境に配慮し操作性に優れた油圧駆動式フォークリフト

環境に配慮し、操作性に優れた商品として2012年7月に発売した新型フォークリフト「FH40-1・FH45-1・FH50-1」は、2013年3月までに200台を超える受注を獲得しました。建設機械で培ったコマツ独自の電子制御HST（油圧駆動式トランスミッション）により自社の従来機に比べ、最大30%の燃料消費低減というダントツの低燃費性能を達成したことに高い評価を頂きました。フォークリフトとして初めて車両遠隔管理システム「KOMTRAX」も標準搭載し、お客さまの車両管理業務を幅広くサポートします。アメリカ、CIS、インドネシアではデモ機を試用したお客さまから燃費の良さを絶賛頂いており、今後も国内外で受注の拡大に注力していきます。

2013年2月には、省エネルギー効果の著しい産業用機器を開発・実用化したものに贈られる「日本機械工業連合会会長賞」をいただきました。



● 油圧駆動式フォークリフト FH50-1

従来施工と情報化施工のイメージ



環境マネジメント コマツと環境との関わり

環境と社会の持続的発展のために「コマツができること、しなくてはならないこと」を考え、コマツグループ全体で実現に向けた活動を推進しています。

私たちコマツは、事業活動が地域および地球規模の環境問題と深く関わりがあることを認識し、以下の重点4分野を重点テーマとして取り組みます。

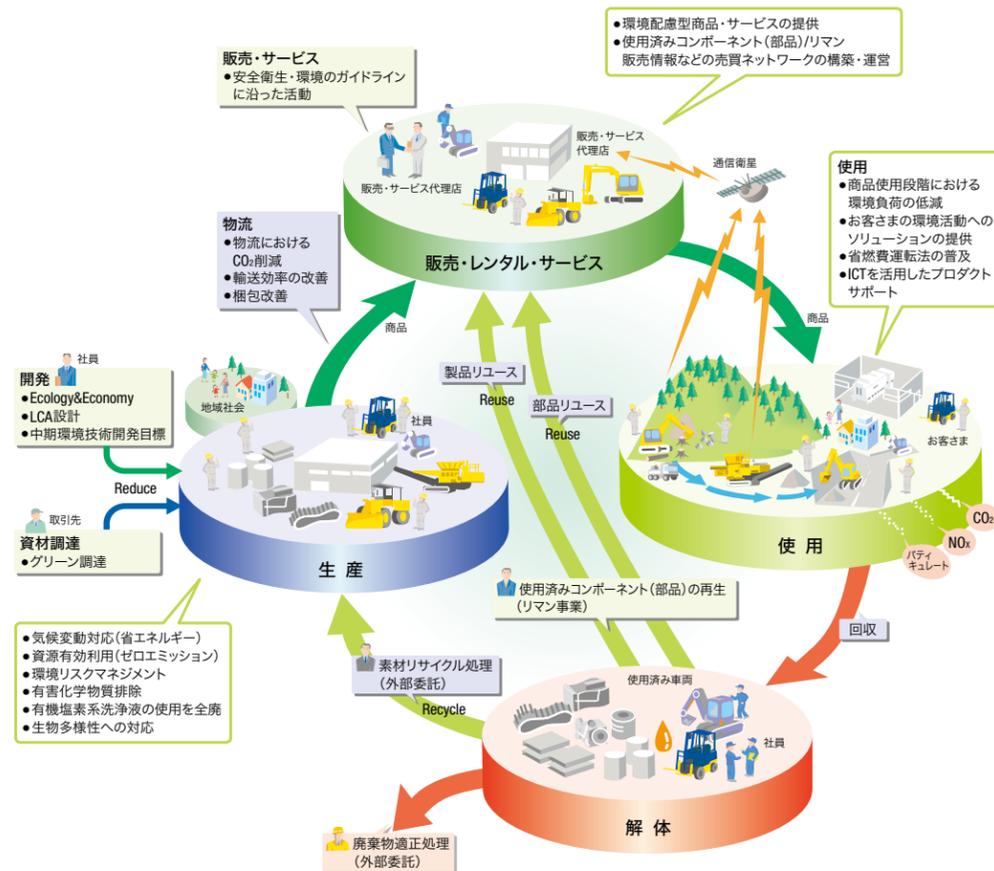
- 1) 気候変動への取り組み
- 2) 循環型社会構築への取り組み
- 3) 大気・水環境などの保全および化学物質管理
- 4) 生物多様性

コマツグループは、2010年に内容を見直した「地球環境基本方針」に沿い、

- ① 持続可能な発展への貢献
- ② エコロジーとエコノミーの両立
- ③ 企業の社会的責任

を基本理念に、全事業領域にわたりグローバルな実現に取り組んでいます。

コマツグループの事業活動と環境との関わり



環境マネジメント 地球環境基本方針

基本理念

1. 持続可能な発展への貢献

人類は、豊かで快適な社会を発展させるとともに、かけがえない地球環境を健全な状態で次の世代に引き継いでいかななくてはなりません。

私たちコマツは、環境保全活動を経営の最優先課題の一つとして位置付け、あらゆる事業活動において、先進の技術をもって環境保全に取り組み、製品のハイブリッド化によるCO₂削減やモノ作りによって持続可能な発展に貢献します。

2. エコロジーとエコノミーの両立

私たちコマツは、エコロジー（環境に優しい）とエコノミー（経済性に優れている）の両立を追求し、お客さまに満足いただける優れたモノ作りを行います。商品の生産から廃棄までのライフサイクル全体の環境負荷が最小限になるように努めるとともに、燃費の改善やリサイクル可能率の向上など、経済性にも優れた商品を提供するために、常に技術革新に取り組みます。

3. 企業の社会的責任

私たちコマツは、それぞれの事業所の立地している地域の法令の遵守はもとより、地球環境および各地域の環境課題を踏まえた自主基準を制定して環境保全を推進します。また、各地域の環境保全活動に積極的に参加し、地域社会との緊密なコミュニケーションを図ることによって、企業の社会的責任を果たすとともにコマツを取り巻くあらゆる関係者（ステークホルダー）から信頼される企業をめざします。

行動指針

1. 地球環境問題への基本姿勢

私たちコマツは、事業活動が地域および地球規模の環境問題と深く関わりがあることを認識し、以下の重点4分野の環境問題について次の基本姿勢で臨みます。

1) 気候変動への取り組み

研究・開発から調達・生産・物流、さらには販売・サービスまでのすべての事業活動ならびに商品・サービスの全ライフサイクルで使用するエネルギーおよび排出する温室効果ガスを削減します。

2) 循環型社会構築への取り組み

事業プロセスを通じて、材料・水などの地球資源の投入量を極力削減し、それらの循環を可能な限り推進し、生産活動におけるゼロエミッションをグローバルに展開するとともに、協力企業・販売会社などすべての事業領域での廃棄物管理の徹底を図ります。

また、商品廃棄時のリサイクル可能率の向上にも継続的に取り組みます。

3) 大気・水環境などの保全および化学物質管理

水質保全、大気汚染防止、騒音振動防止などについて、地域の法令はもとより自ら制定した基準も含め遵守します。

また、事業活動の中で使用する化学物質の確実な管理を行うとともに、有害な可能性のある化学物質は継続的に削減・代替に努め、可能な限り使用を中止します。

4) 生物多様性

生物多様性を地球環境の一つの重要課題と認識し、事業領域全体で生物多様性への影響を評価・把握・分析し、影響・効果の高い施策から優先して取り組みます。

2. 環境管理体制の構築

コマツ本社・生産事業所および主要な関係会社は環境ISOの認証を取得し、環境管理体制の維持・向上をめざし、その他の事業所・協力会社も環境管理体制を整備し、グループ全体での環境負荷低減に取り組みます。

「コマツ地球環境委員会」では、コマツグループの環境行動計画および環境に関するガイドラインを策定します。これに基づき、グループ各社・各事業所はそれぞれの中長期目標を設定し、具体的な行動計画を策定・推進するとともに定期的にレビューを行い、継続的な改善に取り組みます。

3. 環境教育および環境コミュニケーション

私たちコマツは、一人ひとりの環境意識の向上が大事であると考え、全従業員への環境教育・啓発活動を積極的に推進します。

環境情報について、生産事業所だけでなく、主要関係会社・協力企業などの環境関連情報も収集し、事業活動全体の情報公開に努め、お客さま、従業員、地域社会、協力企業など、コマツを取り巻くすべてのステークホルダーとの積極的な対話を深め、環境コミュニケーションをより充実させます。

気候変動対応 電力半減プロジェクト

電力削減活動

コマツは従来からCO₂削減による環境負荷低減を進めてきましたが、2011年東日本大震災後の東京電力、東北電力管内での電力不足に続き、2012年以降も全国的な電力不足が見込まれることを受けて、大幅な生産性向上により電力削減を加速していくこととしました。

電力の使用状況の詳細な分析により、最終的に50%以上の削減が可能との見極めが出来たことから、新たな目標として対2010年夏比で50%の電力ピーク削減を目指し、併せて、使用電力量の抑制を図り環境負荷低減に貢献します。

電力削減の考え方

電力削減の基本的な考え方は

- ①電力の見える化による無駄の排除 ②生産改革 ③代替エネルギーの利用 です。

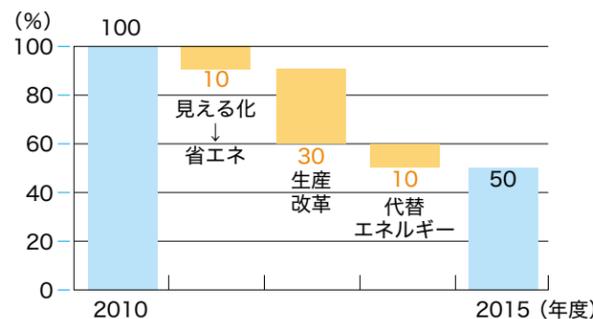
① 電力の見える化によるムダの排除

国内全工場の1時間毎の電力消費を本社で自動収集して、社内向けに公開するシステムを構築しています。社内のどのパソコンからでもリアルタイムで電力の使用状況がわかります。

一方各工場では、建屋ごと、設備ごとなどのさらに詳細な電力の見える化にも取り組んでいます。

こういった電力の見える化により、ムダな電力の使用やエネルギー効率の悪い設備の発見、生産活動と電力使用の相関の把握が可能となり、効果的に電力削減活動を推進することができます。

また、事務所ロビー等でのデジタルサイネージにより、一般社員への啓蒙活動や来客への活動のアピールも行なっています。



② 生産改革

コマツの生産工場の電力消費の約6割が部品の加工を行う設備で消費する電力です。コマツには機械加工、溶接など様々な加工プロセスがありますが、それぞれの分野において設備の改善による電力削減と、能率向上を含む加工プロセス改善による電力削減を進めています。

③ 代替エネルギーの利用

コマツは建屋の屋上スペースの有効利用として太陽光発電を導入しています。

また、一年中温度が安定している地下水を空調の補助として利用するなど、再生可能エネルギーの活用を進めています。



●● 粟津工場開発センター

省エネ新建屋への更新

全社的な電力削減の活動を進める中で、照明や空調が主である組立工場や事務棟などでは、古い建屋を新規に建て直し省エネ技術を織り込むことで、50%程度の電力削減が可能であることがわかりました。一方コマツの生産建屋は築40年を越えるものが6割以上を占め、これらの建屋では柱の間隔が狭いなど効率的な生産システムの構築を阻害するケースがありました。

そこで、これらに対する抜本的対策として生産建屋の統合更新を進めることとしました。

その際に、最新の省エネ技術の採用に加え、生産改革の織り込みによる大幅な生産効率の向上（合理化）、建屋面積削減による電力削減、投資金額の抑制を図り、十分な投資回収を可能とします。

2013年着工の粟津工場を皮切りに、2020年までに300～400億円の投資を見込んでいます。

基本的な考え方

- 最新の省エネ技術を採用し、電力削減50%を達成する
- 生産改革により能率向上させ、設備占有面積を△30%削減する
- 新建屋は自然エネルギー（太陽光、地下水等）を最大限に活用する

安全性の向上

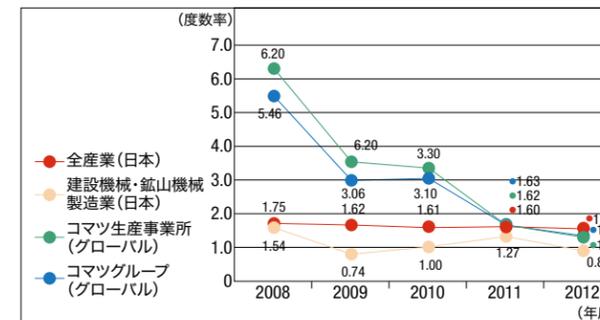
「安全性」はコマツが事業を展開する上での、最も重要なテーマの一つです。商品・サービスにおける安全性向上はもちろんのこと、お客さまの現場から、社員やビジネスパートナーの職場における安全への取り組みに力を入れています。

お客さまの現場における安全性の向上

コマツの商品開発キーワードは「ICT、環境、安全」です。他社商品に比べて「ダントツ」の安全性能を有する商品を提供するとともに、お客さまの現場で機械を安全に使用して頂くために、販売・サービス代理店と一体となって、事故やトラブルの予防のためのご提案や講習を実施しています。

<安全講習会の内容>（日本の建設機械販売での事例）

- ・安全管理、危険回避などに関するノウハウ
- ・過去の事例から学ぶ安全対策
- ・建機作業種別安全作業 など



1. コマツ生産事業所の労働時間データは、国内および海外主要22社を対象にしている。
2. コマツグループの対象範囲は、コマツ生産事業所と、日本国内販社で、国内販社は、2010年度までは建設機械のみ、2011年度からフォークリフトを対象に追加。

Voice

ゼロ災へ向け社員1200人「全員参加」を合言葉に活動中

コマツリフト(株) 総務部 安全推進担当主幹 松本 雄一さん



コマツリフトは、2009年10月に日本国内フォークリフト販売会社9社を統合して発足した新しい会社です。別々の会社が統合したということで統合直後は、安全に対する考え方や文化にも違いがありましたが、2012年までに全社規模での安全衛生管理体制の整備を完了し、

- [1] 安全は全てに優先する**
- [2] お客様に「安全・安心」をお届けし、お客さまから選ばれ続ける会社となる**
- [3] 決められたルールの遵守を徹底する。**
(決められた装備・保護具使用の徹底。作業手順の遵守) を基本方針として、現在、「全員参加」を合言葉に下記の活動を展開中です。

ビジネスパートナー（協力企業）における取り組み

「協力企業の皆さまとともに」を参照ください。

社員の安全衛生に対する取り組み

コマツでは、安全衛生に関する社長メッセージを発信するとともに、2011年4月には「コマツの行動基準」において、新たに「安全衛生方針」を定め、会社と社員が協力して活動を推進することを宣言しています。

>> <http://www.komatsu.co.jp/CompanyInfo/profile/conduct/#c05>

また労働安全への取り組みとして、ゼロ災サークルを中心とした全員参加による安全活動の積極的な展開および安全活動の充実を進め、グローバルな安全活動の支援を行うとともに、グループで安全衛生管理体制を整えて、心身の健康管理を行い、社員の健康増進をめざしています。

>> <http://www.komatsu.co.jp/CompanyInfo/csr/2013/1-1.html>

1. 全社員参加の安全衛生大会開催

全国9会場に全社員が集まり、社長による安全衛生活動方針の説明、災害対策事例発表、安全・健康に関する講演等を通じて、社員一人ひとりの安全衛生に関する意識を高めています。

2. ヒヤリハット事例の共有化、危険予知訓練・危険体感訓練の実施
地域毎に任命された専任の安全推進責任者の指導のもと、毎朝の安全朝礼や安全教育を拠点単位で開催し、ヒヤリハット事例の発表、危険予知訓練・危険体感訓練等を行い、災害予防に努めています。

3. 安全パトロールによる現場改善の徹底

自社の拠店内だけでなく、お客様の敷地内でのフォークリフト整備作業時にも、安全・5Sを徹底するよう社長が全国各拠点を巡回指導し、日々レベルアップに努めています。

こうした活動により2012年度の災害発生件数は前年比で35%の低減を達成しました。

引き続き全員参加でお客様に「安全・安心」をお届けし、お客様から選ばれ続ける会社となるよう日々努力して参ります。

人を育てる

重点活動

- ・地域社会における人材育成への貢献
- ・コマツウェイを通じた人材育成（社員、協力企業）
- ・ブランドマネジメントを通じた人材育成（社員、代理店）



世界各地で、地域に根ざした人材育成

売った地域でサービス員を育成することがメーカーの責任

コマツが掲げるCSR重点分野の一つ「人を育てる」という取り組みは、社内はもとより、事業を展開する世界各地において、その地域の人々の人材育成支援に力を入れていることが特徴です。建設機械が稼働するためには、どのような場所であろうとも、それを保守するメカニックの存在が不可欠です。「販売したからには、保守する人材を育てることに責任を持つ」という考えのもと、世界各地にトレーニングセンターを開設し、コマツのサービス員を育成すると同時に、一般的なメカニックとしても活躍できる技能を修得する機会を提供しています。



●● タンザニアで代理店サービス員を育成するサポートセンターの様子

地域の特性に合った人材育成

人材の育成は、その地域に合った様々な方法で行われます。アフリカなど、需要が拡大している一方でメカニックが不足している地域では、販売サービス代理店と連携し、コマツの訓練ノウハウを共有することで、即戦力となる人材を育てています。中国では、山東省の大学にコマツ専門コースを設置し、ここで新人サービス員の研修を行うことで、大勢のメカニックを早期育成する取り組みを行っています。またミャンマーでは、サービス員を育てる指導員の育成が必要であるという考えから、地元の大学と連

携して建設機械専門のコースを設け、まず先生を育てるという取り組みも始められています。

これらの他に、本業を活かした社会貢献活動として力を入れているのが、製造業を支える若い力を育てる取り組みです。



●● ナイロビの代理店内にあるコマツトレーニングセンター



●● ミャンマーでのトレーニングの様子

ドイツ KOHAG での次世代育成

ドイツのコマツハノマーグ (KOHAG) では、2011年12月から、地元の小学校4校と、モノ作り教育促進のための協定を締結しています。これは国・州レベルで取り組んでいる技術衰退防止と次世代育成に呼応したもので、NPO法人が制作したツールキットを各校に5セットずつ無償で提供し、社員が小学校の先生に対して、ツールキットを使った授業方法の指導を行い、いつでも相談に応じる体制を整えています。

キットは、ドライバーなどの工具、ボルト・電気回路などの部品類、板や車輪などの工材と、解説書から成っており、建築工学や車両工学、電子工学を易しく学ぶことができます。授業終了後には子供たちを KOHAG の工場見学に招待し、学習した原理が実際に機械に使われていることを体感してもらっています。



●● KOHAG 社員が小学校の先生を指導



●● 授業の後に子供たちは KOHAG 訪問

コマツ発祥の地でOBが中心となって活動を展開

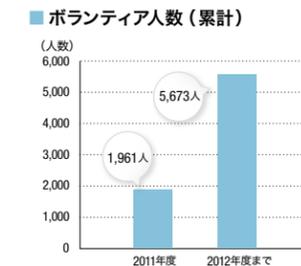
2011年、コマツ発祥の地・石川県小松市にオープンした「こまつの杜」では、地元小学生を対象にした次世代育成プログラムが提供されています。敷地内の里山における自然観察や、理科教室などを通じて、地域の子供の健全な育成に寄与しています。この活動のユニークな点は、主にコマツを定年退職したOBにより行われていることで、NPO法人を設立し、自然観察、理科教室、美化活動、イベントサポートの4部会ごとに企画運営されています。登録OBの人数は283名、来場者数も10万人を突破しました。



●● 理科教室では、熱電素子のしくみを楽しく学びながら、ロボットで競争



●● 敷地内の里山で自然観察



スウェーデン・ウメオでの貢献活動

スウェーデンのコマツフォレストでは、地元ウメオ市と近郊地域への社会貢献を目的に、ドラゴン高校の職業訓練プログラムに寄付を行いました。2012年9月に一新された施設・設備は「コマツテクニカルセンター」と名づけられ、最先端の機械ロボットなどを有する製造ラインや、溶接トレーニングルーム、情報処理センターなどから構成されています。またソフトの面でも、モノ作りに関する「コマツウェイ」を教える科目の追加や、優秀な学生を日本のコマツに招待してコマツのモノ作りを体験してもらうスカラシップの設置など、企業が保持する技術レベルに基づいた、最先端の教育環境が提供されます。

コマツテクニカルセンターから製造業を支える人材が輩出されることと、若く優秀な人材が集まることで、ウメオ市がモノ作り教育のメッカとして活性化されることが期待されています。



●● コマツのノウハウが活かされ、一新された製造ライン

Voice

欧州最高水準の職業訓練プログラム

コマツの支援が、ウメオ市の競争力向上と持続可能な発展に寄与

スウェーデン・ウメオ市 City Chief Executive
Mikael Öhlundさん



ウメオ市は、成長著しい地域を擁するスウェーデン北部最大の都市で、2014年の「欧州文化首都」（一年間にわたり集中的に様々な文化行事が展開される事業）にも制定されています。私たちが直面している最重要課題の一つが、技術、産業分野における競争力向上への長期的な取り組みであり、コマツによるドラゴン高校テクノロジーセンターへの寄付は、この地域の将来の産業発展にとって非常に重要なものです。

コマツによるウメオへの寄付によって、ドラゴン高校の訓練プログラムは国内最高の技術水準になるでしょう。テクノロジーセンターの新しい課程を受けたいと、早くも応募する若者が増えてきたことに気づかれます。これは企業の競争力を高めることにもつながるでしょう。コマツの寄付により、ウメオが主要産業都市としての地位を強化することになり、市の持続的な成長にも寄与するのです。

モノ作り職業訓練コースとして、今やドラゴン高校テクノロジーセンターは欧州最高水準であり、コマツの寄付は非常に重要な役目を果たしています。この投資はウメオを魅力的な産業都市にすることに大きく貢献しているのであり、そこではテクノロジーセンターがウメオの発展に重要な役割を果たしているのです。

私たちはコマツの厚意と、始まったばかりの密な協業に感謝しています。ウメオは長きにわたって持続可能な発展に向け積極的に取り組んできましたが、コマツと出会って、手を取り、ともに希望を叶えることのできるパートナーを見つけたのです。これは地域と企業、産業界が一緒になって未来を築くことができる、素晴らしい事例であると感じています。これからも互いの役割を尊重しながら、この成功の鍵のもとで事業を進めていきたいと考えています。

このようにウメオと周辺の地域は、学び、働くのにより魅力的になってきており、また同時に、職業生活の課題に直接対応した訓練コースにより、企業が必要とするスキルを提供することができます。これら全てが、ウメオがスウェーデン北部で成長するための力を生み出し続けることに貢献するのです。すでに何人ものドラゴン高校卒業生が、コマツの入社試験に合格し、コマツフォレストに採用されたということは、大変喜ばしく、輝かしい具体例です。

だれもが働きやすい職場をめざして

コマツグループで働く社員は、コマツにとってかけがえのない財産です。「安全・安心で、能力を最大限に発揮できる職場」を提供するための仕組みづくりを進めています。

グローバルな人事方針

人事制度はそれぞれの地域の歴史、文化を反映したものであり、その制度の違いを正しく理解し、認識しなければなりません。コマツグループ各社は、以下の基本方針に基づき、各地域の事情を反映した、その地域にふさわしい人事制度を構築しています。

- (1) 社員を個人として、その基本的人権を尊重するとともに、個性、人格、プライバシーを尊重する。
- (2) 社員一人ひとりを公正に評価し、雇用機会の均等を含め公平に取り扱う。国籍、人種、宗教、年齢、性別、障害の有無、その他の理由による不当な差別及び職場でのハラスメント等の行為は、絶対に行わない。
- (3) 社員が、私生活とのバランスをとりつつ、充実した業務遂行ができる職場作りに努める。
- (4) 諸制度の設計及び運用は社員に納得性のあるものとする。また、制度は正しく社員に伝え、可能な限りオープンなものとする。
- (5) それぞれの地域で、労働者の権利に関する法令を遵守するとともに、社員個人又はその代表者との対話・協議にあたっては、これに誠実に対応する。
- (6) 児童労働・強制労働は絶対に行わない。
- (7) それぞれの地域で、競争力のある労働条件を設定する。

ワークライフバランスの推進

総実労働時間の削減

社員の「ワークライフバランス」を考えていくうえで、総実労働時間の削減は大きなテーマです。例えば日本では、コマツはこの問題に対して労働組合と協調し、年間2,100時間未満、年次有給休暇平均16日以上取得という具体的な数値目標を掲げ、各職場で活動計画を作成するなど、効率的な働き方の実現に向けた取り組みを進めています。

また、1991年より、社員のボランティア奨励制度として最長2年の有給休暇と年間最大12日までの特別休暇制度を設け、2012年までに長期にわたる顕著な社会貢献活動をした社員延べ37名に対し、ボランティア社長表彰を授与しています。先般の東日本大震災による被災地への復興支援として、労働組合とともに社員の被災地におけるボランティアを支援するため、交通費等を支給しています。

ワークライフバランス推進のための主な制度・施策

| 制度・施策名 | 内容 | |
|---------|--------------|--|
| 育児支援 | 育児休業制度 | 出産から保育園入園まで最大3年間取得可能。また、配偶者の転勤等による小学3年までの子の育児のため最大3年間取得可能 |
| | 妊娠・出産・育児特別休暇 | 妊娠中に5日（女性）妻の出産時に5日（男性）乳児を育てるために5日（男女とも） |
| | 短時間勤務 | 小学3年までの子の育児のため、1日最大3時間の労働時間短縮 |
| | 育児サービス・経費補助 | 保育園入園前の2歳までの乳幼児の保育料の一部補助（月額1万円） |
| | 看護休暇 | 看護が必要な小学3年までの子ども1人につき年間5日、2人以上であれば年間10日 |
| 介護支援 | 介護休業制度 | 家族の介護のため最大3年間取得可能 |
| | 短時間勤務 | 1日最大3時間の労働時間短縮 |
| | 介護休暇 | 要介護家族1人につき年間5日、2人以上であれば年間10日 |
| その他休暇制度 | 積立年休 | 最大40日までの未使用年休の積立 毎年10日を超えない範囲で5日の新規積立付与 私傷病や未就学児の看護、家族の介護に使用可能 |
| | リフレッシュ休暇 | 社員のリフレッシュを目的とした連続5日間の年休取得促進 動続15年、25年、35年の年には新規に連続5日間の年休と旅行引換券付与 |
| | ボランティア奨励制度 | 長期有給休暇として最大2年間、短期特別休暇として年間12日取得可能 |
| | | |

コマツウェイと人材育成

グローバルな人材育成は、コマツが取り組むべき持続的な課題の一つです。コマツの強みである「コマツウェイ」を全世界で共有するための教育を推進するとともに、各分野でのプロフェッショナルになるための教育体系を整えています。

コマツウェイの改訂

2011年11月に第2版を配布したコマツウェイの内容に関する説明会を、国内各事業所及び関係会社にて実施し、管理職層を対象として説明を行いました。

また、海外現地法人では、コマツウェイ第2版の現地語訳を進め、主要な現地法人での現地語訳は2013年3月までに終了しました。



●● 現地語訳が進められるコマツウェイの冊子（写真はタイ語と中国語版）



●● 茨城工場でのコマツウェイ説明会



●● タイのバンコックコマツでの説明会

<コマツウェイ第2版>

- I. はじめに/コマツウェイとは何か?
- II. マネジメント編
- III. モノ作り編
- IV. ブランドマネジメント編

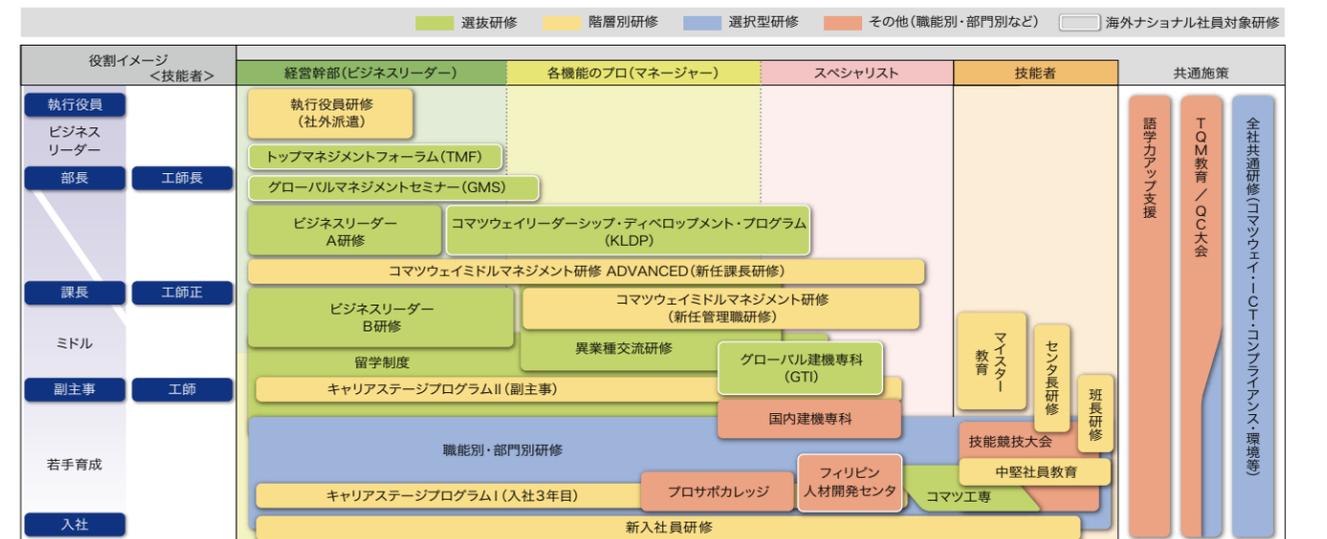
<マネジメント編の要旨(一部)>

- ・経営トップはCSRを自覚して行動するとともに、常に現場に立脚し、現場のデータを分析した上で経営を考えること。
- ・取締役会は定期的に開催し、活性化する。報告・討議・決議のステップで十分に検討すること。
- ・会社の状況、今後の方向性について、社員をはじめとした全ステークホルダーに自らの言葉で説明すること。

人材育成と教育体系

コマツでは、「社員は一人ひとりが高い目標を設定し、自立・自走して知識・スキルを習得する」「会社は会社（経営）と社員に必要な教育を重点的に実施し、社員のキャリア形成を支援する」という方針のもと、「教育」により、会社と社員を持続的に成長させることを目指しています。

各分野でのプロフェッショナルになるための教育の充実を図るとともに、各階層に求められる知識やスキル習得を支援しています。また「コマツウェイ」を全世界の社員に浸透させるために、階層別研修にもこれを取り込み、解説とグループ討論の場を設けるなどして、伝承・定着を図っています。



●● コマツの教育体系

社会とともに発展する

重点活動

- ・ステークホルダーとの双方向のコミュニケーション
- ・本業を活かした社会貢献（災害復興支援、地雷除去活動）
- ・地域社会への貢献
- ・コーポレートガバナンスとコンプライアンスの徹底
- ・ビジネスパートナーを含めた環境・労働・社会規範遵守の促進



東日本大震災復興支援への継続的な取り組み

被災地の状況に応じた、段階的な支援

東日本大震災の被災地において、時間の経過とともに状況・ニーズが変わっていく中で、コマツでは本業を活かし、地域に密着した支援を続けています。

震災発生直後は、宮城県仙台市に開設した「東北オペレーション室」を中心に、被災地の自治体と連携しながら、地域のニーズを把握し、要請に基づき建設機械や仮設ハウスなどの無償貸与を中心とした災害復興支援に取り組んできました。現在では、本格復興に対する支援・協力が不可欠となっており、状況に応じた適切な支援を段階的に実施しています。



●●地域のニーズを把握し、迅速な支援を行うための拠点となった東北オペレーション室

直接支援からコミュニティ再生

■ 第1段階の支援 震災・津波被害への直接支援

震災直後の被災地にとっては、散乱しがれきの処理や寸断された道路などの復旧が最大の課題でした。それらに使われる建設機械を全国から集め、無償貸与を行いました。

無償貸与した建設機械は264台にのぼっており、被災した岩手・宮城・福島3県の55拠点、671名の営業・サポート部門の社員が現地に密着して、これらの機械のサポートにあたりました。

■ 第2段階の支援 コミュニティの再生

被災地の住民の方々にとっては、「生活の場」の確保が極めて大きな問題でした。地域のコミュニティ再生に寄与するため、コマツグループが保有する仮設ハウスの無償貸与や、プレハブハウスの寄贈を行いました。これらの施設は、学校や幼稚園、郵便局、診療所など、コミュニティの場として活用されています。



●●がれき処理が急がれる中、宮城県女川町で稼働する油圧ショベル



●●岩手県陸前高田市へ提供した仮設郵便局

そして本格復興支援へ

現在は第3段階の支援として、本格復興に対するさまざまな支援を行っています。産業の再生に向けた支援として、被害を受けた漁業関連施設に対し、社団法人「希望の烽火（のろし）」にフォークリフトを寄贈し、約60台が稼働しています。また、被災地で不足している建設機械オペレーターの育成と被災

者の就労支援のため、コマツ教習所宮城センタを開設し、受講料の半額を補助しています。受講者はすでに累計4,700名を超え、復旧・復興に活躍されています。

さらに、将来のモノ作りを担う学生の修学を支援しています。東北・北関東地方にある被災した国立高等専門学校に学生に対し、独立行政法人国立高等専門学校機構を通じて、奨学金（名称：「コマツ奨学金」）を支給しています。また、お客さまである資源企業のリオティント社と共同で、東北大学へ奨学金（名称：「リオティント・コマツ奨学金」）を創設し、支給しています。



●●漁業復興に向け、寄贈したフォークリフト



●●宮城県名取市に開設したコマツ教習所宮城センタ

メーカーとして、高い技術力を活かした支援

建設機械メーカーとして、高い技術力を活かした支援にも取り組んでいます。福島第一原子力発電所では、無線による遠隔操作が可能なラジコン建設機械を投入し、がれきの撤去を行いました。また放射能の除染作業においては、土壌の深さを指定することで自動的に表面を一定の深さで掘削することができるICTを活用した情報化施工ブルドーザーが期待されています。

被災地の復興工事では、川の浅瀬やがれきの残る護岸、小規模な漁港など、建設機械を載せた船が使えない現場が多くあります。そのため、約20年ぶりに水陸両用ブルドーザーを改修し投入しました。水陸両用ブルドーザーは、水深の浅い河口部や湾岸の工事で船などに替わる建設機械として1971年に開発しましたが、生産を打ち切っていたものです。今回、唯一国内で稼働する5台のうち1台を大幅改修し、被災した橋の復旧工事に投入しました。ラジコンによる操作で動かし、陸上だけではなく水深7mまでの水中作業ができるので、船の進入が難しい復興現場で稼働しています。

今後も、コマツグループの保有する経営資源を最大限に活用し、本格復興に対する支援・協力を継続的に行っていきます。



●●宮城県名取川で稼働する水陸両用ブルドーザー

Voice

甦る！ コマツ水陸両用ブルドーザー

―被災した漁港・港湾・河川の復興・復旧工事で活躍―

青木あすなる建設株式会社
土木技術本部 土木リニューアル事業部長
馬欠場 真樹様



絶句！ 名取川を逆流し、周囲の家々を飲み込んでいく…。かつて見たことのない巨大な津波！ 2011年3月11日午後3時過ぎ、私が見た新千歳空港ロビーのモニターには驚愕の映像が映し出されました。あれから2年が経過しましたが、三陸沿岸や宮城・福島沿岸は復旧すらまだまだという感があります。

昭和46年に水陸両用ブルドーザー1号機が開発されて以来、東日本大震災による津波被災を受けた岩手県北部沿岸での増殖場開発や各地の漁港・港湾工事、河川工事を施工して参りました。しかし使用している5台の水陸両用ブルドーザーは老朽化が激しく、修理、修理…の連続。一昨年、東日本大震災復興支援のためとコマツの方々が立ち上がり、水陸両用ブルドーザーの大規模リメイクを実施頂きました。修理に携わったコマツの工場職員の方々が『当時としては画期的な技術だ！』と驚くほどの機械であり、今もなお復興・復旧工事や浅水・浅海域での工事引き合いが絶えません。このような優れた性能を持つ水陸両用ブルドーザーを、よきパートナー『コマツ』の協力を得ながら、さらに次世代へ継承していきたいと思えます。

ステークホルダーとの対話

社員やビジネスパートナー、投資家や株主、地域社会の皆さまといったステークホルダーとの双方向の対話に加え、社外のステークホルダーの方々をお招きし、コマツの経営や事業に対する意見を頂く活動も行っています。

グローバルなステークホルダーとの対話

2012年2月、コマツ大阪工場において開催したステークホルダーとの対話の場には、地元自治体や国内の大学に加え、国際的な非営利団体などからも参加頂きました。「21世紀のモノづくり拠点としてのあり方を考える」をテーマに、「グローバルなマザー

工場としての大阪工場が、社会から求められることは何か」「どうすれば社会に長期的に貢献していけるか」などの議題で対話が行われました。ステークホルダーからは、透明性の高いコミュニケーションや、サプライチェーン全体でCSR活動を行うことが重要であるといった、貴重な意見を頂きました。



●大阪工場で行った、ステークホルダーとの対話の様子

産学連携パートナーとの意見交換

コマツは国内主要大学とともに、中国でも山東大学と同済大学で共同研究、インターンシップ等を通じた産学連携を進めています。2012年4月には、同済大学で研究、就業指導、学生実習を担当する先生方を常州にある小松（常州）工程機械有限公司と小松（中国）テクノセンターに招待し、建設機械概要を紹介するとともに、双方関係者が専門講座、学生実習の段取り、実

験室資源の共有等、優秀な人材育成についての意見交換を行いました。

また、2012年11月、2013年3月には共同研究成果報告会を行い、研究に従事する大学とコマツの研究者が学生を交えて技術報告と討議を行いました。

このようなステークホルダーとの対話の場を通じて、通常の事業活動を通じてだけでは得がたい提言やご意見をいただき、経営や事業活動に活かしていきたいと考えています。



●小松（中国）テクノセンター見学の様子



●同済大学「コマツ成果報告会」の様子

協力企業の皆さまとともに～CSR調達への取り組み～

材料や部品、コンポーネントなどのサプライヤーである協力企業は、コマツのモノ作りを支える重要なパートナーです。コマツでは協力企業の皆さまに対しても、社会的規範の遵守をお願いするとともに、CSR調達への浸透に取り組んでいます。

CSR調達ガイドラインの制定と普及

コマツは、以前から環境や安全衛生を中心として協力企業と連携した活動を展開してきましたが、2010年11月にISO26000（社会的責任に関する国際的な手引）が発行されたことを契機として、2011年8月に、協力企業に取り組んで頂きたいCSRに関する重要課題を網羅的に記載した「CSR調達ガイドライン」を制定しました。

て、CSR経営の重要性をアピールし、CSR経営に向けた意識改革に努めています。

また、「コマツみどり会」会員以外の企業を含むコマツグループの国内協力企業全社に対して、コマツからの定期的な情報発信として、CSRに関する具体的な事例を紹介する「CSR通信」を2011年5月から毎月2回、協力企業向けのホームページに掲載し、CSRの浸透のための継続的な働きかけを行っています。

コマツは、「CSR調達ガイドライン」を通じて、協力企業各社に従来以上に企業の社会的責任を強く意識して頂き、サプライチェーン一体となってCSR活動を加速することを目指しています。

日本国内の主要協力企業が参加する「コマツみどり会」には、164社が加盟しており、その調達金額は、コマツの日本国内の購買品の約75%に達しています。その会員各社の経営トップが揃って出席する「コマツみどり会」の定例会合（総会、経営者懇談会、新年互礼会等）のつど、コマツは「CSRガイドライン」に則し

海外での取り組み

海外でも、北米、欧州及び中国の3地域において、それぞれの地域の主要な協力企業を会員とする「みどり会」組織が結成されています。会員数は、北米37社、欧州51社、中国62社を数えています。海外の「みどり会」会員も日本の「みどり会」の総会にオブザーバ参加する等、地域間の会員の交流も開始されており、CSRに関しても日本の活動を追いかけるかたちで、各地域の特色を活かした活動が展開されることが期待されます。

Topics

紛争鉱物に関する取り組み

■「紛争鉱物（Conflict minerals）」に関する規制の背景

「紛争鉱物」とは「錫・タングステン・タンタル・金」の4鉱物を指します。2010年7月に米国で成立した金融規制改革法の第1502条において、米国に上場している企業であって、製品の機能または製造にコンゴ民主共和国(DRC)及び周辺国産の紛争鉱物を必要とする者に対し、紛争鉱物の使用についてSEC（米証券取引委員会）へ報告することが義務づけられました。同条項の目的は、1996年以来国内紛争が絶えないコンゴ民主共和国の武装集団の資金源を絶つことです。

■「紛争鉱物」に関する コマツの方針

コマツは、米国の金融規制改革法およびCSRの観点から、DRCおよび周辺諸国（アンゴラ、ブルンジ、中央アフリカ共和国、コンゴ共和国、ルワンダ、南スーダン、タンザニア、ウガンダ、ザンビア）産の「紛争鉱物」を使用しない方針です。

このコマツの方針については「コマツの紛争鉱物に関する対応と依頼事項」として、既に国内のコマツ各工場の業務連絡会でサプライヤーの皆さんに説明するとともにサプライヤーの皆さんの協力のもとに「紛争鉱物」の原産国調査を進めています。



●米国デトロイトで、建設機械業界団体の会合に参加する協力企業。紛争鉱物についての説明も行われた。（2013年6月）



●紛争鉱物と関係する国

今後さらに詳細な調査として「紛争鉱物」の精錬所レベルまでの調査を実施するとともに、DRCと周辺諸国産品を使用しない（武装集団の資金源を絶つ）ように活動を進めていきます。

コンプライアンスの推進

コマツでは「コンプライアンスをすべてに優先させる」との方針で、ビジネスルールの遵守・周知の徹底および体制整備を推進します。

コンプライアンス推進体制

ビジネス社会のルールの遵守をグループ全体に浸透させるため、コマツ本社に担当役員を任命し、専門部署として「コンプライアンス室」を設けています。また、社長を委員長とする「コンプライアンス委員会」においてグループの活動方針、重要事項などを審議するとともに、コンプライアンス活動の推進状況を定期的に取り締役に報告しています。

「コマツの行動基準」

国内外のグループ各社の役員および社員が守るべきビジネス社会のルールとして、「コマツの行動基準」（1998年制定、以後7回改訂）を定めています。この行動基準には、自由で公正な取引、会社と社員の適正な関係、地球環境への取組み、情報の取扱い、内部統制システムの確立などについても明記しており、全文を社外に公開しています。

コマツは、その社会的責任（CSR）を果たすことを重要な固有の責務と捉えており、「コマツの行動基準」もCSRを重視する姿勢を明確にしています。また、コマツのコンプライアンス活動は、行動基準を土台として、(1)行動基準の設定、(2)行動基準の展開、(3)実態の把握と、(4)不備の是正のサイクルを不断に回すことを活動の柱としています。

各部門からの定期報告の義務化、各種監査の実施、内部通報制度の充実等により、「コマツの行動基準」の浸透度合いを把握する。

(4) 不備の是正:

上記活動を通じて問題が把握された場合、「コマツの行動基準」に沿って是正を行い、再発防止を図る。

ルール遵守の周知徹底

ルールの遵守を常に認識させるため、コンプライアンス上の基本動作を凝縮した「コンプライアンス5原則」のポスターをコマツグループの各事業所に掲示し、社員の意識高揚を図っています。さらに社員の階層や業務の種類に応じたコンプライアンス研修を拡充するとともに、イントラネット上に「コンプライアンスホームページ」を常設し、幅広い啓発に努めています。またコマツの事業所およびグループ各社に対しては、財務監査だけでなく、「コンプライアンス・リスク監査」として、安全、環境をはじめとした重要分野にわたるモニタリングを実施し、リスクの早期発見と改善に努めています。

内部通報制度

ビジネスルールに関するグループの社員からの相談・通報に対応するため、「社員ビジネス相談室」として、社内および社外（法律事務所）に窓口を定めて活動しています。この制度により正当な通報を行った社員は、通報を理由にいかなる不利益も受けないことを「コマツの行動基準」や各社の就業規則に明記し、相談・通報の活性化を図っています。

2012年度の状況

2012年度中に特記すべき事項はありません。

コンプライアンス活動の展開

(1) 行動基準を設定する:

コンプライアンス活動の基本としての「コマツの行動基準」を作成し、適宜改訂を行うこと（現在第8版）により常に社会の動きを反映させる。

(2) 行動基準を展開する:

「コマツの行動基準」をベースとして、階層別・分野別の教育や各種の情報発信等を通じ、行動基準をさらに具体化して展開する。

(3) 実態の把握:

リスク管理

コマツは、当社の持続的発展を脅かすあらゆるリスク、特にコンプライアンス問題、環境問題、品質問題、災害発生、情報セキュリティ問題などを主要なリスクと認識し、これに対処すべく対策を講じています。

リスク管理の基本方針と体制

■ リスクを適切に認識し、管理するための規程として「リスク管理規程」を定め、その中で個々のリスクに関する管理責任者を任命し、リスク管理体制の整備を推進しています。

■ リスク管理に関するグループ全体の方針の策定、リスク対策実施状況の点検・フォロー、リスクが顕在化したときのコントロールを行うために「リスク管理委員会」を設置しています。リスク管理委員会は、審議・活動の内容を定期的に取り締役に報告します。

■ 重大なリスクが顕在化したときには緊急対策本部を設置し、被害を最小限に抑制するための適切な措置を講じます。

コマツにおける事業継続計画（BCP）の推進

コマツでは、災害・事故の発生時でも重要業務を継続または短期間に復旧するため、事業継続計画（BCP）を策定しています。本社ビルにおいては、首都圏直下型地震を想定して、実際の災害時にも的確に行動できるよう定期的に訓練を実施しています。各生産工場においては、各々の計画に基づき、建屋・設備の耐震補強の推進や、集中豪雨への対策を拡充しています。また、新型インフルエンザが発生・流行したときには専門委員会を設置し、適切な対策を講じます。社員に対しては、予防および感染発生時の行動マニュアルを整備するとともに、教育を実施して理解浸透を図っています。

グループにおけるリスク管理の推進

グループ全体でのリスク管理体制のさらなる充実を図るため、リスク報告ルートやマニュアルを整備するとともに、リスク管理やBCPに関する説明会や勉強会を開催し、グループ各社の管理レベル向上を図っています。また「安否確認システム」や「広域無線機」などのツールを導入し、定期的な安否報告訓練や通信訓練を実施することにより、グループ全体での緊急時連絡体制の拡充を推進しています。



●● 本社での緊急対策本部初動訓練



●● 小山工場が栃木県航空消防隊の協力で行った防災ヘリによる救助訓練

情報セキュリティの強化

コマツは、情報セキュリティ委員会を中心にグループ全体の情報セキュリティ体制の整備を推進しています。その一環として、情報を守るには社員一人ひとりの意識向上が必須であるとの考えから「情報セキュリティガイドブック」を全社員に配布し、これに基づく教育・啓蒙に注力しています。加えて、万一の過失や外部からの侵入による改ざん、破壊、漏洩、紛失等から情報を守るため、システム上の防御の仕組みを構築しています。また、一連の施策が確実に実行され効果を発揮していることを確認するとともに、不具合点を発見・改善することを目的に「情報セキュリティ監査」を行っています。



安全な村づくりプロジェクト ～地雷の野原を生活の場へ。人々の自立と発展を支援～

コマツでは、建設機械の技術を活かし、対人地雷の被害で苦しむ地域における地雷除去作業ならびに復興までのコミュニティ開発事業のプロジェクトを支援しています。

安全な土地への復興と、地域の自立と発展のための生活基盤づくりを支援

コマツは2008年から認定特定非営利活動法人「日本地雷処理を支援する会(JMAS)」と提携し、カンボジアとアンゴラにおいて、対人地雷の被害で苦しむ地域における地雷除去活動ならびに復興までのコミュニティ開発事業のプロジェクトを行っています。



●● コマツの対人地雷除去機



●● インフラ整備をするコマツの建設機械

カンボジアにおける「安全な村づくりプロジェクト」

この5年間の活動で、5つの村にまたがって地雷除去から地域復興を完了させてきました。この間、合計で、約450haの地雷除去、20kmの道路整備、約40個のため池造成、500世帯の入植地、そして4つの小学校を建設しました。これにより、地雷原が安全な農地へと再生し、自分達で販売できる物流道ができ、多くの村民が自立し、生活を向上することにつながりました。



●● 安全になった大地に広がるトウモロコシ畑とKomatsu小学校



●● 入植地の村と子供達

アフリカ アンゴラでの地域復興プロジェクト

2009年度から西アフリカのアンゴラでもJMASとともに、地雷除去から地域復興までのプロジェクトに取り組んできました。4年間で約100haの地雷除去、街の清掃活動、農業心育成等、現地の住民の皆様方に役に立つ活動を支援してきました。そして復興地のMabubasでは地雷除去跡地に、州都を移転する計画も進んでいます。



●● アンゴラの大地での地雷除去



●● 州都移転のための浄水場建設計画

CSR活動のあゆみ

■ コマツの環境・社会活動のあゆみ

| | | |
|-------|---|--|
| 1962年 | (財)日本花の会設立時から支援継続 | NPO法人「日本地雷処理を支援する会(JMAS)」と契約締結 |
| 1991年 | 地球環境委員会の設置 社名呼称をコマツに変更、ロゴデザイン一新 | ISO14001コマツ本社および国内グループ会社の統合認証取得 油圧ショベルPC200-8ハイブリッド発表 |
| 1992年 | 地球環境憲章/環境活動計画を策定 | 国連グローバル・コンパクトに署名 |
| 1994年 | 「環境報告書」第1号を創刊 監査役会の設置 | JMASとのアンゴラ地域復興プロジェクト開始 |
| 1995年 | 国際ナショナル・アドバイザー・ボードを設置 | プレスブレーキのPBZシリーズおよびPASシリーズがMFエコマシン((社)日本鍛圧機械工業会の環境ラベル)認証取得 |
| 1997年 | 小山工場が国内建設機械業界で初めてISO14001の認証を取得 | コマツ、アダロ、UTがインドネシアでのバイオディーゼル燃料プロジェクトで基本合意 |
| 1998年 | 倫理委員会の設置(後にコンプライアンス委員会に改称) コマツの行動基準(初版)を発行 | コマツ生産部門CO ₂ 削減の新中長期目標設定 コマツ地球環境基本方針を改定 |
| 1999年 | 執行役員制度を設置、取締役会の改革(社外取締役制度の導入) 報酬委員会の設置 | 日・米・欧の新排出ガス規制に対応した最新のエンジン搭載車を発売(2011年から北米で販売開始) コマツ「生物多様性宣言」を制定 |
| 2000年 | 第1回グローバル環境会議を開催 「環境報告書」を発行(以降は毎年発行) | 東日本大震災で被災した学生を支援する「コマツ奨学金」を設立 JMASとの「カンボジア安全な村作りプロジェクト」完了 |
| 2001年 | コンプライアンス室を設置 | CSR重点分野の策定 |
| 2002年 | 国内のコマツグループの全生産事業所7カ所でISO14001認証取得完了 | コマツ創業の地である小松市に「こまつの杜」オープン コマツの行動基準第8版を発行 |
| 2003年 | 環境管理部を設置 | コマツ、アダロ、UTのバイオディーゼル燃料プロジェクトパイロットプラントの開所式開催 |
| 2004年 | CSR室を設置 | 「CSR調達ガイドライン」を制定 |
| 2005年 | 第1回欧州地域安全・環境会議開催 | 小山工場に事業所内託児所「コマツキッズおやま」を開設 |
| 2006年 | 国内全生産事業所でゼロエミッション達成 コマツウェイの明文化および推進活動開始 | 「こまつの杜」の来園者が10万人を突破 |
| 2007年 | コマツの行動基準第7版を発行 | ハイブリッドACサーボプレスH1FシリーズがMFエコマシン認証取得 |

コーポレート・インフォメーション

■ 会社概要

| | |
|---------|---|
| 会社名 | コマツ（株式会社 小松製作所） |
| 本社 | 〒107-8414 東京都港区赤坂二丁目3番6号 |
| 設立年月日 | 大正10年（1921年）5月13日 |
| 代表者 | 代表取締役社長（兼）CEO 大橋 徹二 |
| 資本金 | 連結 67,870百万円（米国会計基準による） 単独 70,120百万円 |
| 売上高 | 2012年度 1兆8,849億円（連結） |
| 主な事業 | 建設・鉱山機械、ユーティリティ（小型機械）、林業機械、産業機械などの開発・製造・販売・サービス |
| グループ会社数 | 147社（コマツと連結子会社） |

■ 従業員数

| | |
|----|--------------------------|
| 連結 | 46,730名（当社と連結子会社146社の人員） |
| 単独 | 9,921名（出向者を除く） |

■ 地域別従業員数

| | |
|-----------|---------|
| 日本 | 19,172名 |
| 米州 | 11,358名 |
| 欧州・CIS | 3,518名 |
| 中国 | 4,717名 |
| アジア・オセアニア | 6,609名 |
| 中近東・アフリカ | 1,356名 |

■ 売上高の詳細

